BREW MATIC

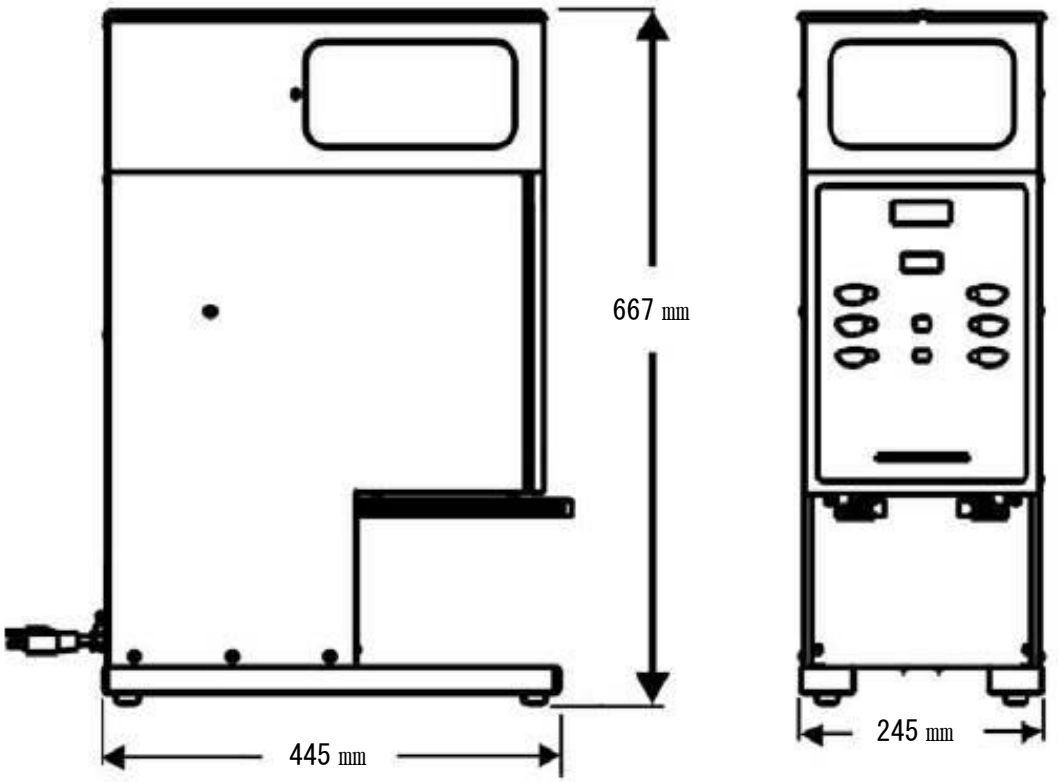
DG-2

取扱説明書

目　　次

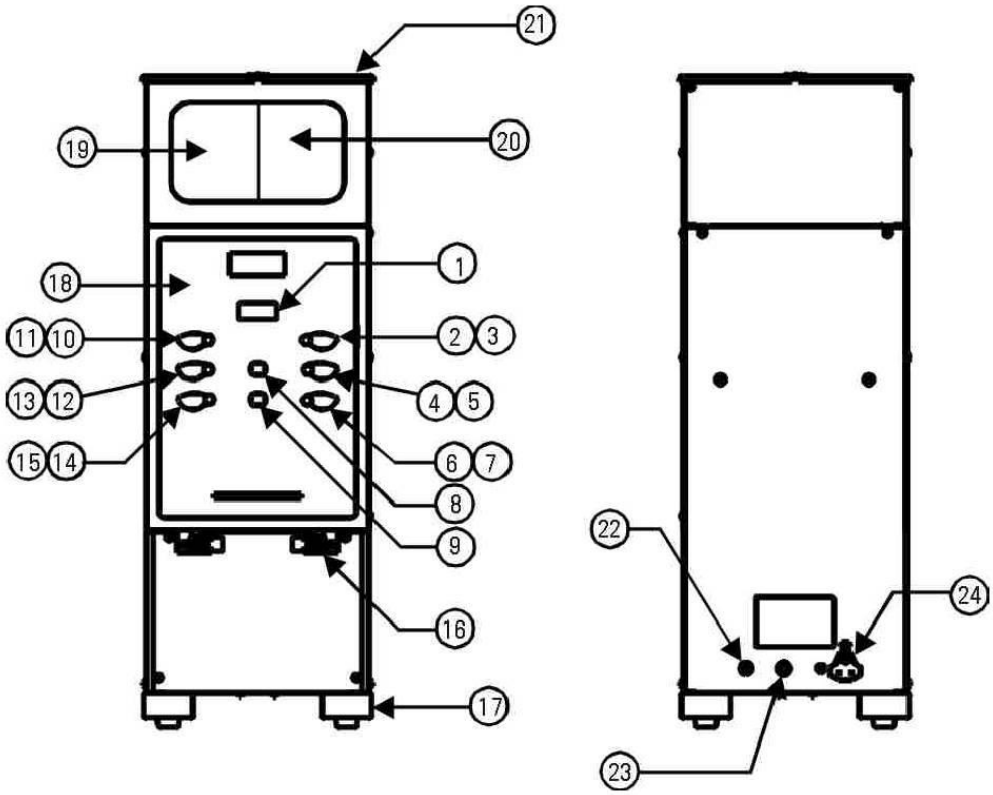
主な仕様・・・

主な仕様



機 種 名	DG-2 型
寸法（㎜）	W 245×D 445×H 667
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	680W　7A
ホッパー容量	3Kg×2

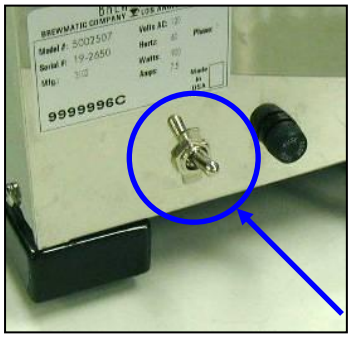
各部の名称と動き



1. **ディスプレー**
   状態の表示をします
2. **Large ボタン（右側）**
   右ホッパーに入った豆を設定量分挽きます
3. **Large ボタンランプ（右側）**
   2 のボタンを使用中に光ります
4. **Medium ボタン（右側）**
   右ホッパーに入った豆を設定量分挽きます
5. **Medium ボタンランプ（右側）**
   4 のボタンを使用中に光ります
6. **Small ボタン（右側）**
   右ホッパーに入った豆を設定量分挽きます
7. **Small ボタンランプ（右側）**
   6 のボタンを使用中に光ります
8. **＋ボタン**
   プログラム設定の数字を増やします
9. **－ボタン**
   プログラム設定の数字を減らします
10. **Large ボタン（左側）**
    左ホッパーに入った豆を設定量分挽きます
11. **Large ボタンランプ（左側）**
    10 のボタンを使用中に光ります
12. **Medium ボタン（左側）**
    左ホッパーに入った豆を設定量分挽きます
13. **Medium ボタンランプ（左側）**
    12 のボタンを使用中に光ります
14. **Small ボタン（左側）**
    右ホッパーに入った豆を設定量分挽きます
15. **Small ボタンランプ（左側）**
    14 のボタンを使用中に光ります
16. **コーンアーム**
    ブルーイングコーンを固定するアーム
17. **脚**
18. **スイッチパネル**
19. **左ホッパー**
    左側設定ボタンで豆を挽くための豆受け
20. **右ホッパー**
    右側設定ボタンで豆を挽くための豆受け
21. **トップカバー**
    ホッパーに豆を入れる時に開けます
22. **サーキットブレーカー**
23. **主電源スイッチ**
24. **電源コード**

使用方法

このグラインダーはドリップコーヒー専用のミルで、２種類の豆を挽くことができます。
（注意）　エスプレッソコーヒー用には、使用できません。



23

１．電源コード 24 を、100V コンセントに差し込みます。
２．マシン前面下部にある主電源スイッチ 23 を上に押し上げ電源を入れます。
３．トップカバー21 を開け、コーヒー豆を左右のホッパーの中に入れます。
４．ブルーイングコーンにフィルターペーパーを入れ、コーンアーム 16 にはめ込みます。コーンアームはコーンを押し込めばスプリングで広がる様になっています。
５．スイッチパネル 18 にある各スタートボタン（Large2・10、Medium4・13、Small6・14）のいずれかを押すと各設定量の豆が挽かれ、フィルターペーパーの中にたまり、自動的に止まります。

クリーニング

コーヒーグラインダーは継続して使用していると、豆を挽く刃の凹凸の間に粉が貯まってきます。
そのままの状態で挽き続けていると、挽かれたコーヒー粉の粒子が均一にならず微粉が増える一方粗い粉が残ったりするようになり、挽かれる粉量が不安定になります。
このような状態でコーヒーを抽出すると、コーヒーを最良のバランスの取れた持ち味で仕上げることが出来ませんので 1 週間 1 回の清掃をして下さい。

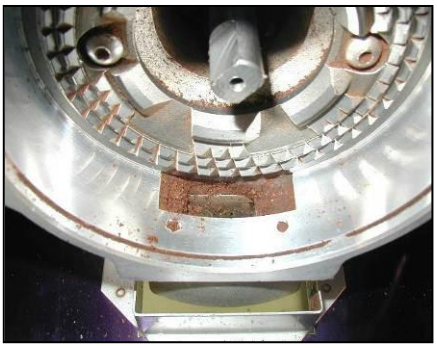
クリーニング手順：　（次ページ参照の分解図も一緒にご覧になって下さい）

写真 1

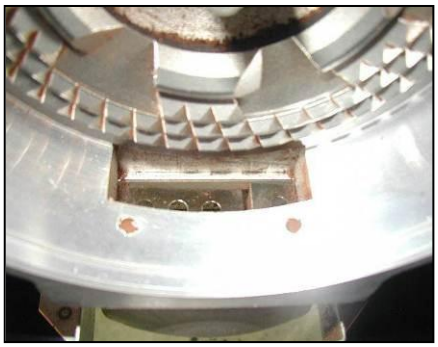
1. 電源コードをコンセントから抜いて下さい。
2. スイッチパネルのついた前面パネルを開きます。
   正面右側の止めネジ 2 本をゆるめ、パネルを手前に引けばドアの様に開きます。
3. パネルを開くと正面にグラインダー本体が見えます。
   まず、2 本の蝶ネジ 11 を外します。　固い場合はペンチで外します。
4. カッターカバー8 を静かに取り外します。　次に 4～7 までの部品を外します。

（注意）4～7 までの各部品は、図のように順番にはめ込まれているだけですから、
バラバラに外しても大丈夫です。しかし、落として無くさない様、気を付けてください。

5. カッター2 の固定刃（ボディ 1 に固定）及び回転刃（回転シャフト 4 に固定）と粉出口板バネをブラシで清掃します。



板バネ部 清掃前

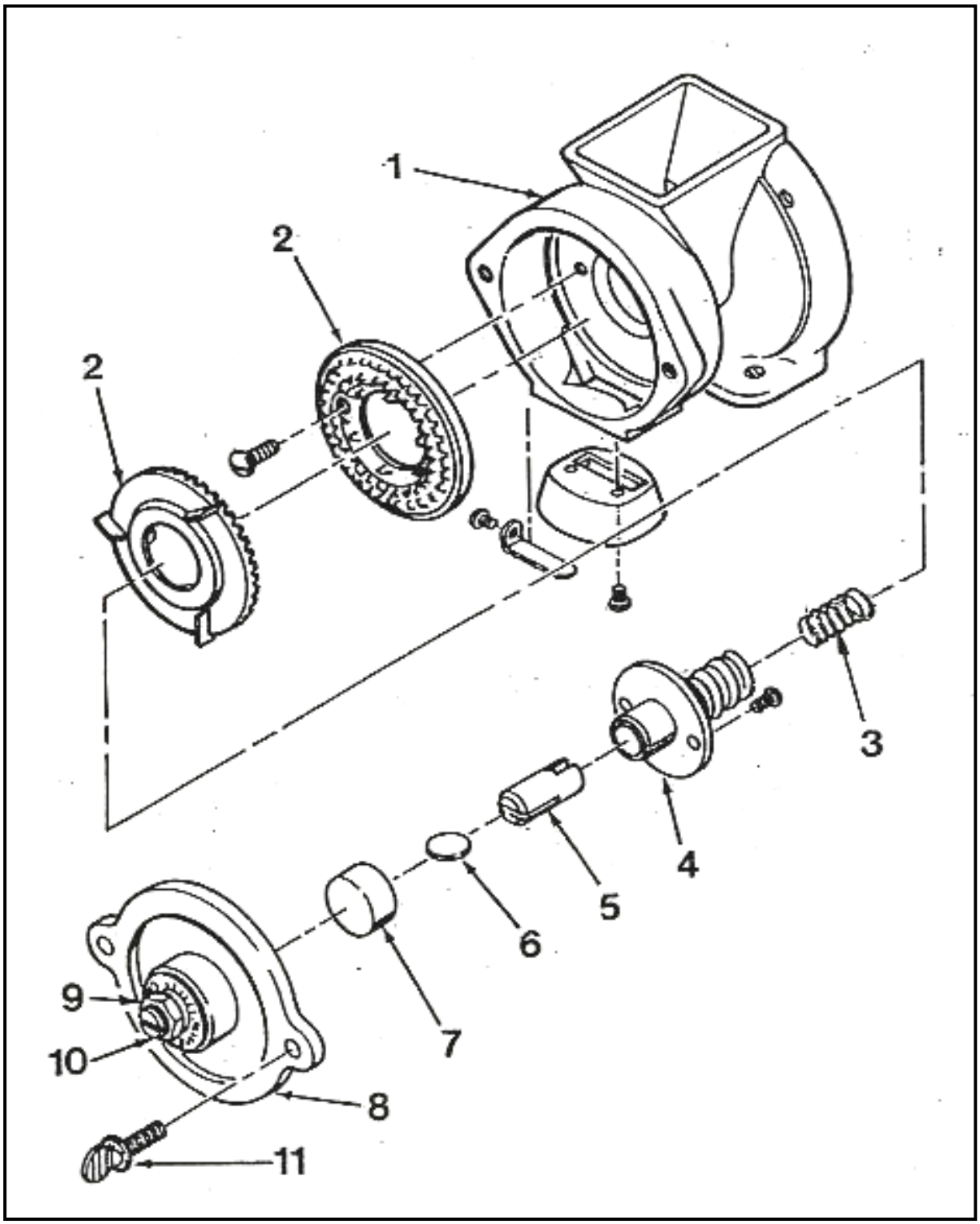


板バネ部 清掃後

6. 清掃が終わったら、元通り組み立てます。　その際、もし各部品がバラバラになっている場合は次の点に注意して下さい。
   a) スプリング 3 を飛ばさないように気を付けて下さい。
   b) 溝つきシャフト 5 を回転シャフト 4 の挿入口にきちんと奥まで入るように、少し回しながら入れます。（モーター軸と溝が噛み合うように）
   c) 溝つきシャフト 5 を回転シャフト 4 の切れ込みを合わせ、その間にコイン 6 を挿入してキャップ 7 をかぶせます。
   d) カッターカバー8 を元通りに取り付け、蝶ネジ 11 を締めます。
   この時、必要なら挽き目調整ネジ 10 を回して再調整して下さい。

最後に前面パネルを取り付け、電源コードを差し込めば完了です。

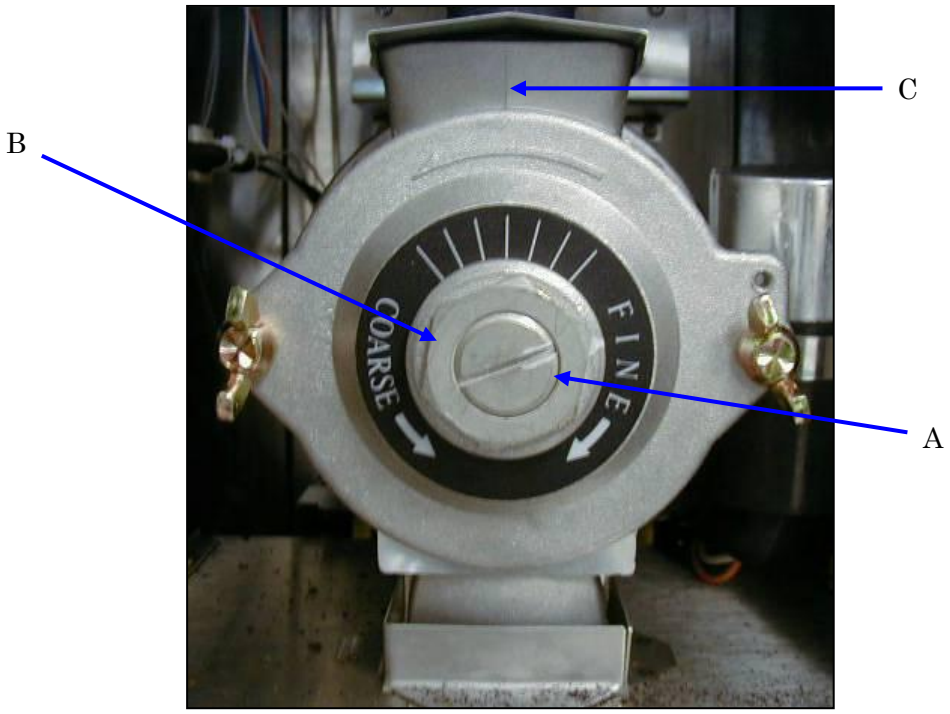
グラインダー本体部分の分解図



挽き目調整方法

粉の挽き目調整は下記の方法で行います。

1. 前面パネルを外すと、グラインダーとモーターが見えます。
2. シリンダー部分 C に豆が残っていないことを確認してください。
3. グラインダー軸の中央にある調節ネジ A のロックナット B をゆるめ、
   調節ネジをードライバーで回して調節します。左へ回すと粗くなり、右に回すと細かくなります。
   実際に豆を少量入れて、挽き目をみながら少しずつ何回でも調整してください。

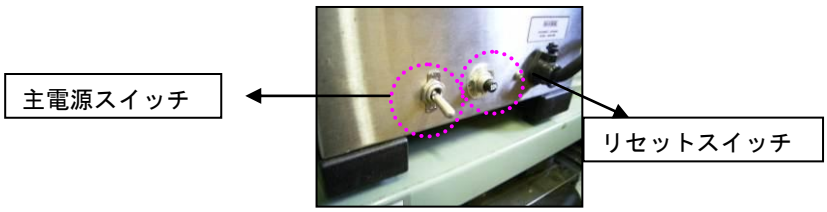


プログラミング

プログラミングは豆を送る時間とシリンダー部分を清掃するための時間の調節を行います。

1．前面パネルの＋ボタン 8 とーボタン 9 を **3 秒間押したまま**にします。
   すると、ディスプレー1 に SEt と表示されプログラムモードに入ります。
2．調整したい項目のボタン（**2・4・6・10・12・14**）を押すとディスプレーに現在設定されている挽き時間が表示されます。
3．粉量を増やす場合は＋ボタン 8 を押して挽き時間を増やします。
   粉量を減らす場合はーボタン 9 を押して挽き時間を減らします。
4．挽き時間を変更したら **2**. で押した項目ボタンを押して変更数値を記憶します。
5．挽き時間を記憶させると次にクリーニングタイムが 010 と表示されます。
   挽き時間の調節と同様に＋・ーボタンを押して変更して下さい。
6．クリーニング時間を変更したら **2**. で押した項目ボタンを押してください。
7．再び前面パネルの＋ボタンとーボタンを **2 回押して**プログラムモードを終了させてからもう一度豆を挽き粉量の測定をします。粉量が合わない場合は、**1**. からの操作を繰り返してください。

トラブルシューティング

症状	処置
電源が入らない	① 電源コードがコンセントに接続されているか確認ください。 ② コンセントに電気が来ているか確認してください。 ③ マシン背面のスイッチが上（ON）になっているか確認ください。 ④ マシン背面のリセットスイッチが作動していないか確認してください。 ⑤ 電源側のブレーカーが作動していないか確認してください。 
コーヒー粉が出ない	⑥ ホッパーに豆が入っているか確認してください。 ⑦ シャーディスクが破損していないか確認してください。 ⑧ グラインダー内部にコーヒー豆が詰まっていないか確認してください。
コーヒー粉の粒度が一定しない	⑨ コーヒー豆が古い場合は新鮮なコーヒー豆と入れ替えてください。 ⑩ コーヒー粉出口の清掃を行ってください。 ⑪ コーヒー粉の粒度調整を行ってください。 ⑫ グラインダーの刃が磨耗していないか確認してください。
コーヒー豆を挽く時に金属音がする	⑬ 粒度が細かすぎて刃と刃が当たっていないか確認してください。 ⑭ グラインダー内部の外壁に刃が当たっていないか確認してください。
コーヒー豆を挽いている途中にモーターが止まってしまう	⑮ 長い時間連続で使用すると、モーターがオーバーヒートしますので約 15 分モーターを冷却してください。

ブルーマチックジャパン株式会社
本社：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎東 4 丁目 5 番 13 号
TEL. 045-947-0800（代表）
大阪（営）：大阪府西区阿波座 1-9-9 1F
TEL. 06-6531-1333（代表）

0702020R